

「播磨国風土記」の世界
穴粟郡の動物たち

伝統的な年中行事が消えていく現代社会の中で、初詣や門松など、まだまだ多くの習俗が残っているのがお正月でしょう。正月は、三が日を中心とする「大正月」と、正月の火祭り、トンドが各地で行われる十五日を中心とする「小正月」とに大別されます。今はめったに見られなくなった「狐追い」「狐狩り」は、その小正月の習俗でした。江戸時代、佐用の商人がまとめた「西播怪談実記」に、狐から狐火を奪った牧谷村(山崎町上・下牧谷)の男の話が載っています。「蕪澤の伝説と民話集」(語り・矢野寅之助、筆者・小西優)によれば、牧谷あたりではかつて狐火の行列、「狐の嫁入り」が見られたとか。



▲下牧谷に鎮座する式内社、大倭物代主神社

「播磨国風土記」に狐は出てきませんが、昔は同じくらい身近だった狼の記述があります。風土記は地方の実情を調べるための朝廷の命令に基づく報告書で、調査項目のひとつが土地の産物(銀・銅・彩色(染料)・草木・禽獣・魚・虫等)でした。穴粟郡の郡名の由来にも登場する鹿は、特別な存在として物語の中で語られますが、狼は「禽獣」と意識されていたようです。では、穴粟郡では、どこに狼が生息していたのでしょうか。まず、前回紹介した柏野里の敷草村(千種町)の項に、「鉄を(千種町)の次に「狼・熊住めり」と記されています。

狼はやがて信仰の対象となり、「山のお犬」として畏れ敬われました。ニホンオオカミは絶滅してしまいましたが、養父市の養父神社など、兵庫県でも日本における狼信仰の名残が見られます。前回「雨をめぐる物語」で触れた波賀町上野の宝殿神社には、狼の狛犬が鎮座しています。(播磨学研究所研究員 埴岡真弓)

▶宝殿神社の狼像
秋祭りの奉納相撲は有名



おいでよ図書館へ

穴粟市立図書館 ☎ 62-4620



えほんのじかん
おはなしのじかん

毎週土曜日

午前10時30分～午前11時

4歳以上の子どもたちを対象に、絵本を読んだり、昔話を語ったりします。申し込みは不要です。始まる時間までに図書館へお越しください。

今月の
オススメ



マララ 教育のために立ち上がり、
世界を変えた少女

著者/マララ・ユスフザイ

／パトリシア・マコーミック

道傳愛子訳

史上最年少でノーベル平和賞を受賞した少女マララの手記。幼少期の思い出、武装勢力タリバンの侵襲、銃撃をつけた日から現在までの様子を綴っています。



高齢者の日常生活サポート
監修/桑原紀子

体調の変化のチェックや高齢者がなりやすい病気の対処法など、身近にいる家族だからこそできる、健康寿命をのばすための予防法が紹介されています。

図書館カレンダー

□ 休館日 □ 館内整理日(休館)

【開館時間】 午前10時～午後5時30分

日	月	火	水	木	金	土
						15 16 17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

編集
後記

新年、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

さて、今年は穴粟市にとって節目の年です。穴粟市が発足して10年、穴粟藩が成立して400年、穴粟の歴史も記される播磨国風土記が編さんされて1,300年となります。「賢者は歴史に学ぶ」という諺もありますし、この機会に穴粟の歴史を学んでみたいと考えられています。まずは10年間の「広報しろう」を読み返すことをから始めてみようかと年頭にあたり決意しています。市のホームページと市立図書館では「広報しろう」のバックナンバーをご覧いただけますので、興味のある方はぜひご覧ください。本年も「広報しろう」をよろしくお願いいたします。

真